

編集後記

特集「アメリカのヒバクシャ」の「日本人被爆者と日系アメリカ人被爆者の活動から平和運動を考える」と「在米被爆者とその周辺」で、アメリカの被爆者の状況と平和運動について述べられています。これまでマスコミでほとんど報道されなかった内容です。日系アメリカ人の歴史や状況は複雑ですが、在米被爆者を通して核問題と人権について考えさせられます。

また「核の終わりを探る旅～アメリカニューメキシコ州・ワシントン州などを訪ねて～」は、ウラン採掘で被曝した先住民の人々、核実験で被曝した風下住民、核廃棄物のずさんな管理で被曝した人々、アメリカ在住のマーシャル諸島の被曝者の現状と交流が書かれています。アメリカに様々なヒバクシャがいることがわかります。

さらに「1960、70年代における自衛隊退職者団体隊友

会の動向」と「70年安保とベ平連」で、1960-70年代における自衛隊退職者団体の動向や平和運動の歴史について知ることができます。一方「Active Learners が巣立つ、立命館附属校平和教育」では、未来を担う次世代の考えを展示によって知ることができます。「子どもたちに負の遺産を伝える展示」では、ホロコーストや日本軍により性奴隷にされた女性の歴史を、どう子ども達に伝えていくことができるのかを考えさせられます。また「みて、かんじて、かんがえた韓国」では、韓国の博物館訪問を通して、日本による植民地支配と518光州民主化運動について学ぶことができます。いずれも充実した内容ですが、今後も「平和研究・平和教育」に資する論考の投稿をお待ちしております。

山根和代（立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター運営委員）

投稿へのお誘い

1. 立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム
紀要—では、以下にあげるような、広義の平和に関する研究論文又は学術実践報告の投稿を求めます。

- ・平和に関する学術研究
- ・平和に関する教育実践報告
- ・博物館活動
- ・博学連携

2. 種類と分量

掲載記事の種類と分量は、下記のとおりとし、編集委員会で決定、または承認されたものとします。フォーマットは40字×30行とします。

①論文	12,000字～40,000字
②資料紹介	4,000字～20,000字
③研究ノート	4,000字～16,000字
④書評	4,000字～8,000字
⑤調査・研究	4,000字～20,000字
⑥実践報告	4,000字～20,000字
⑦研究展望	4,000字～12,000字
⑧時評・コラム	4,000字～6,000字

3. 言語

原則として日本語、横書き、テキスト形式によるもの。英文の原稿については、事前に編集委員会にご相談ください。

4. スケジュール

7月第1土曜日…原稿応募申込締切り
以下の情報をファックス又は郵送
(ファックス書面又は封筒に朱書きで「立命館平和研究」応募と明記すること)

- ①論文の題名(仮題でも可)、②種類、
③日本語要旨、④分量

↓

9月末日…原稿締切り

※受取方法：郵送のみ。封筒に朱書きで「立命館平和研究原稿在中」と明記すること。

※提出物：完成原稿と日本語要旨(200字程度)と英語タイトルと英語要旨(250字程度)を印刷とデジタルデータで提出。

↓

3月上旬…刊行(予定)

5. 投稿原稿については、編集委員会が審議し、掲載、一部書き直し、返却(掲載不可)などの結果を原稿締切り後3ヵ月以内に投稿者に連絡します。

6. 二重投稿はお断りします。

7. 論文に画像を掲載するなど、著作権許諾が必要な記事については投稿者が責任を持って許諾を得ること。

8. 備考

原稿料はお出ししません。

掲載原稿1編につき、本誌5部、抜刷り30部を進呈します。

9. 原稿提出先・お問合せ先

立命館大学国際平和ミュージアム

立命館平和研究編集委員会

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL.: 075-465-8151 FAX.: 075-465-7899